

# 別府市公共交通活性化協議会 議事録

日 時：平成 29 年 5 月 22 日（金） 14：30～15：40

場 所：別府市役所 1 階レセプションホール

## ◆意見要旨

### 1 別府市長挨拶

市長：別府市でも全国平均を上回るスピードで高齢化や人口減少が進んでいる。

中山間地域の公共交通をどう守っていくかが大きな課題となっている。

免許の返納も進んでいるが、私たちも交通弱者になっていく、そういう時代を見越し、また、子供たちの安全に対する対策も進めていかなければならない。

バリアフリー化の要望に対しても正面から向き合っていかなければならないと思っている。

持続可能な地域公共交通をどう形成していくかを皆様のご意見をいただいきたい。

### 2 開会

事務局：21 人の出席により、規約を満たしている。

別府市長より本協議会の会長には阿南寿和 副市長が指名されていることを報告

会長：副会長に大分大学 准教授の大井委員を指名

監査委員に別府土木事務所の中尾委員と別府商工会議所の大塚委員を指名

会長：任期満了による新体制に伴い新たに「別府市身体障害者福祉団体協議会」及び「別府インターナショナルプラザ」から委員を選任いただき、市の関係部長も就任。

議事に入る前に各委員から自己紹介をお願いしたい。

### 3 議題

#### (1) 平成 28 年度事業報告について

\*事務局が説明。(説明内容省略)

委員 ①：東山乗合タクシー実証実験の結果を教えてください

事務局：12 月 19 日から 3 月 31 日まで月曜から金曜の 1 日 4 便運行して、1 便あたり平均 1.13 人、1 日平均 4.5 人となっている。バスも運行していたことも影響していると思うが今後、定時定路線の運行について検討が必要である。

委員 ②：平成 28 年度事業で作成のスマート時刻表が大変好評であった。

配布いただいた部数が後 1 ヶ月程度でなくなってしまうのが今後は自助努力で増刷等やっていきたい。

## (2) 平成 28 年度歳入歳出決算について

\* 事務局が説明。(説明内容省略)

監査委員：監査報告

(質疑等なし)

## (3) 平成 29 年度事業計画(案)について

\* 事務局が説明。(説明内容省略)

会 長：先進地視察という計画があるがどういったものか。

事 務 局：実際に委員の方にも先進地を視察していただく活動をお願いしたい。  
日帰りで行ける範囲で久世委員と相談のうえ視察先を選定していきたい。

委 員 ①：アクションプランの施策の 6 点のうち、今回の実施計画には 3 点があがっているが残りの 3 点はどうするのか？

事 務 局：・関の江団地線の循環線の新設は 28 年度に一部着手している。今後はどのように拡充するかについて事業者と協議していく  
・鉄輪・北浜地区の交通拠点の整備はハード事業のため 29 年度単年度では難しく状況を整理しているところである  
・フェリー・JR・高速バスの乗り継ぎ利便性の向上については大分県の長期計画との連携もあるので関係機関との協議を重ねていきたい

委 員 ①：別府市の再編実施計画はいつ作るのか？

事 務 局：大分県が中部交通圏として網形成計画を策定すると聞いている。県の網形成計画・大分県中部交通圏の再編実施計画と足並みを揃える形で考えており、平成 30 年度を目途に策定に向け進めていきたい。

委 員 ①：東山地区の乗合タクシーの運行についてデマンドを今年度検討するのか？

事 務 局：はい、そのとおりです

委 員 ①：中山間地域における新しい運行形態の検討について具体的に何か考えている事があるか？

事 務 局：平成 28 年度に東山地区で乗合タクシーの実証運行を行ったが、今後、天間地区で乗合タクシーの実証運行を考えている。

## (4) 平成 29 年度歳入歳出予算(案)について

\* 事務局が説明。(説明内容省略)

(質議等なし)

その他

会 長：議事については以上ですが、その他何か質問等ないでしょうか。

専門的な事で難しい話も多くあったと思うが、新しい委員さんもいるので本協議会の設置されている目的等について事務局より少し説明いただけますか。

事務局：本日配布している設置規約をご覧ください。目的第1条にある3項目、3つの役割を説明。

- ①地域公共交通の活性化再生法による網形成計画及び再編実施計画、いわゆるバス路線など公共交通に関する計画を立てる役割
  - ②道路運送法上における住民の利便性増進を図るために必要となる事項を協議する。例えば東山地区におけるコミュニティ運行のことなどを協議する役割
  - ③生活交通確保維持改善計画の策定については昨年度行った関の江団地線フィーダー系統の確保維持など、生活交通を確保維持する計画を協議する役割
- 専門的になったが、路線全体の計画を策定できる、地域住民の利便性向上のためにどのような取組みができるかを協議することができる、また、それに伴った地域が連携した計画を立てることが出来る会議である。

委員 ③：若干補足すると、協議会について事務局が説明したとおりだが、道路運送法上に基づくところ、本来運賃等を決めていく際に通常は半年くらいかかるが、本協議会で話が整えば認可の手続きを省くことが出来る。

会 長：法定協議会ということで、非常に重みがある会議ではあるが、バス停の利用の事など細かいことから大きな計画までを話し合う会議となっている。是非、利用者団体の方につきましても細かいことでもご意見があれば言っていただきたい。

委員 ④：バスの車椅子での利用が難しいので何とか考えていただきたいが、なかなかJRのようにはいかないのが現状。良い方法を考えていていただきたいと思う。

委員 ⑤：福祉タクシーも認可を受けてやっているが、採算的には厳しいのが現状。UDタクシーは健常者も車椅子も通常の小型料金で乗れるが、健常者の利用状況も伸びが悪く事業者としては導入しにくい。今年の秋からはトヨタがタクシー専用車のフルモデルチェンジを行い、全てUDタクシーとなり、車椅子の利用者の利便性は向上すると思う。今後のUDタクシー普及のため、会の趣旨とは異なるが、別府市でもUDタクシーの購入補助制度の実施を検討していただきたい。

委員 ③：若干補足だが、現在の日産のUDタクシーはハッチバックから車椅子の乗降をすることが出来るので道幅を気にしなくて良いが、トヨタは横からの乗降しかできない。交通会議で話すことではないかと思うが、道路部局や福祉部局の方がいるので、今後はそういった車両の導入により、道路の事や交通関係で色々な検討することが必要となってくる可能性がある。

委員⑥：観光客より亀の井バスが発行している乗り放題のパスで大分交通のバスに乗ってしまったという声を聞くが共通パスにすることができないかバス事業者の方に検討していただきたい。

委員①：共通パスにすることが出来ない理由について勉強してみたらどうか？  
せっかくインバウンドで平日の落ち込みが支えられている今となつては、その声に対して真摯に対応するというのには必要な努力であると思うので是非勉強していただきたい。

委員⑦：石垣線のバス停共同利用に関しては利用者の立場から問題視をしている。  
共通パスに関しては耳に入っていなかった。精算が問題となると思うのでICカードなどを作って精算出来るようになれば実現可能だと思うが、一度社に持ち帰って検討していきたい。

委員⑧：大分交通としては以前から作りたいと考えている。精算方法も亀の井バスとクリアな形でいいので検討し、外国人の使いやすい共通パスを作りたいと考えている。

事務局：東山地区の乗合タクシーに関する御審議を案件に7月上旬を目途に第2回の協議会を開催したいと考えています。

#### 4. 閉会